

<はじめに>

核廃絶への新たな潮流への挑戦

鈴木達治郎（RECNA センター長）

平成 28 年度（2016 年度）は RECNA 設立 5 年目の年度であり、大学の中期ビジョン（平成 28～33 年度）の 1 年目に当たる重要な年度であった。世界では、核をめぐる安全保障環境が厳しくなる一方、オバマ米大統領の広島訪問、核兵器の法的禁止措置に向けての動きなど、核廃絶へ新たな潮流の兆しが表れた年であった。そういった中で、RECNA の活動概要は以下の通りであった。

今年度は核不拡散条約（NPT）再検討会議のプロセスがない年であり、ナガサキ・ユース代表団 4 期生は過去の集大成ということで、学生主導で活動を行い、まとめとして「CAPSULE」という報告書を出版した。「北東アジア非核兵器地帯への包括的アプローチ」のフォローアップとなる「ナガサキ・プロセス」を始動させるため、「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル（PSNA）」を立ち上げ、11 月に第 1 回ワークショップを開催することができた。また、昨年度開始した科研費プロジェクトも 2 年目に入り、中間報告を上記ワークショップで行った。またタイムリーな発信機能として「ブログ」、「レクナのみ」を充実させ、国連作業部会、オバマ米大統領の広島訪問、核兵器禁止条約交渉決議等について解説と見解を発信した。RECNA 叢書については、第 1 号が 4 月に発刊され、第 2 号の翻訳作業も進み、平成 29 年 3 月に発刊された。軍縮不拡散教育への取り組みとして、人文社会科学系大学院の中に「軍縮・不拡散プログラム」を設置することが決まった。軍縮・不拡散教育との関連で、12 月には新たに吉田文彦教授・副センター長が就任し、英文学術誌発行準備と東京での活動を活発化させることができた。具体的には 2 月にプリンストン大学からミアン博士を招待し、東京で軍縮教育研究会、長崎で講演会を実施した。外部との連携としては、12 月に外務省主催の国連軍縮会議の長崎開催、1 月にはノーチラス研究所主催のワークショップ開催に協力し、新たなネットワーク構築に貢献した。また、NGO、学界、政策担当者等を招いて率直な意見交換を行う場として「RECNA ラウンドテーブル」を立ち上げ、長崎、および東京で開催した。市民向けのデータベースも、ウェブサイトのデザイン変更を含め充実させるべく改善中である。核兵器廃絶市民講座は年 6 回開催し、今年度は初めて佐世保で開催した。また海外の専門家を招いた公開シンポジウムを 2 回開催した。

以下、それぞれの活動について詳細な報告である。